

工事の げんば 現場より

今はこんな様子だよ。



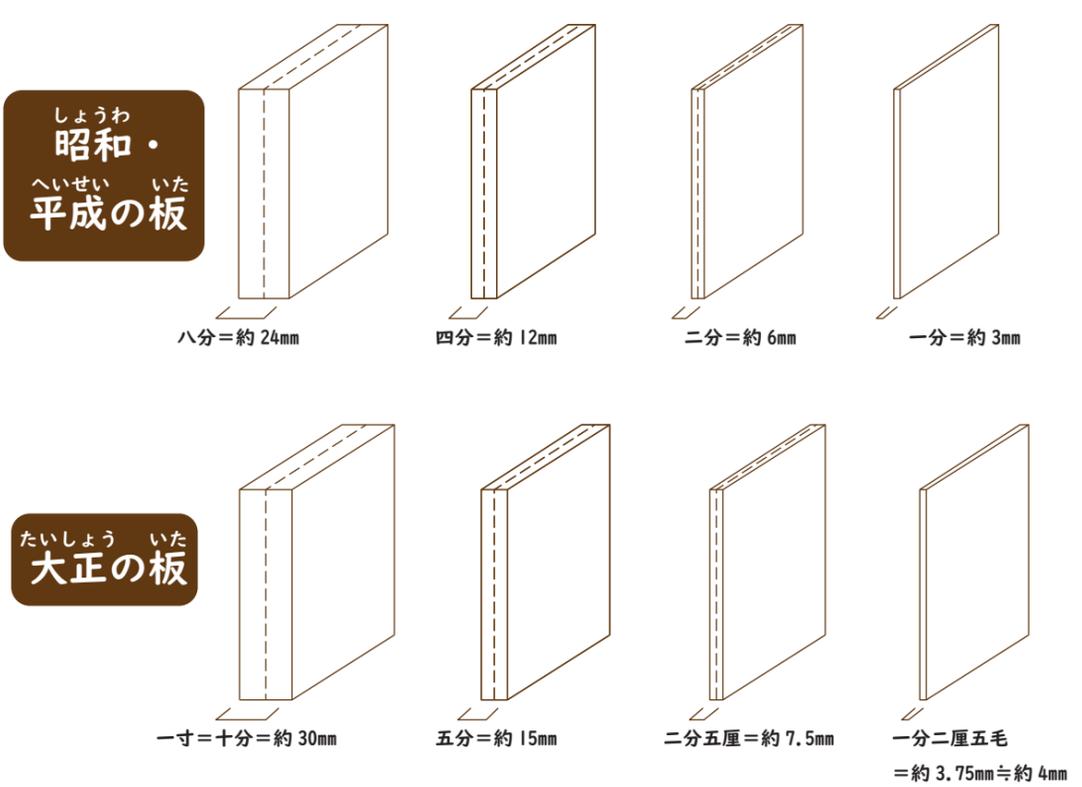
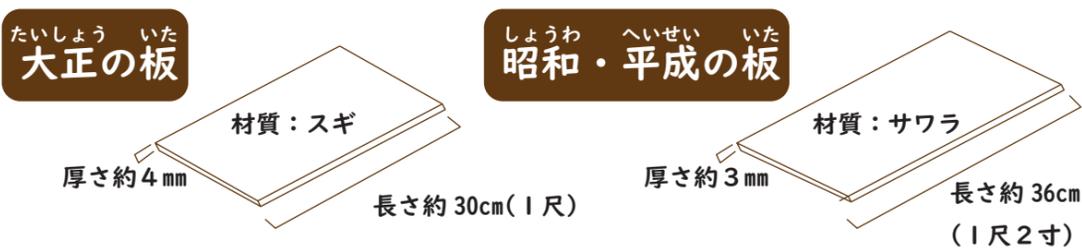
2月4週目

檜皮葺・柿葺屋根の葺き替え作業の皮切りである古い屋根の解体撤去作業に際して、古い屋根の調査が行われました。檜皮葺屋根は摩耗が著しく古い仕様は分かりませんでした。柿葺屋根は大正時代（移築当初）に葺かれた屋根の端材が残されており、当時の仕様が判明しました。残された端材を確認したところ、昭和戦後復旧・平成の葺替の際の板より厚くて短かったのです。今回修理では大正時代（＝原三溪の時代）の屋根の仕様で葺く予定です。



▲ 屋根を解体して出てきた大正時代の屋根板。

▲ 古い屋根板は厚みが足りない箇所への嵩増しとして再利用することがあります。基本的には屋根材は消耗品なので、過去の仕様は文字記録に頼る他なく、こういった残存物は貴重な資料となります。



柿板は一定の厚みにした板を半分にする作業を繰り返して作る薄い板です。近年は最初の厚板は八分=約24mmで、最終的な板は一分=約3mmのものが作られるのが一般的。しかしかつては一寸=十分=約30mmの厚板から割って、最終的に約4mmの板を作ることもありました。